

コープの森・社家郷山 (しゃけごうやま)

2008年、兵庫県でスタートした「企業の森づくり」制度の第1号として活動開始した「コープの森・社家郷山(しゃけごうやま)」(西宮市越水社家郷山)。

活動を始めるにあたり、社家郷山の特性を明らかにするために**植生や生き物などの実態調査を行いました**。この結果をもとに、専門家を交えた森林保全活動推進委員会で、「落葉高木林を中心

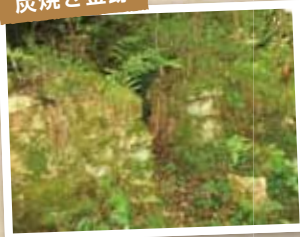
とした明るい森づくり」をめざして整備と学習活動をすすめていくことが確認されています。

里山は、その昔、人々のくらしにはなくてはならないものでした。「おじさんは山に柴刈に…」という昔ばなしにあるように、裏山にある木を切り出して燃料に、落ち葉は畑のたい肥にしていました。このように山を活用することが、そ

のまま山の整備と多様性保全につながっていました。いま、スイッチひとつで電気やガス、水が使える便利な生活の中で、豊かな食べ物の背景にある自然環境や作る苦勞が見えにくくなっています。**「コープの森・社家郷山(しゃけごうやま)」の活動を通じ、人々がこのつながりに気づき、環境配慮の行動を起こすきっかけづくり**ができればと考えています。

人手が入らず暗くなった森を整備しながら、**魅力づくりと学びのポイントづくりをすすめています**

炭焼き釜跡



人がこの地で生活し、里山としてそのくらしを支えていたことをうかがわせています

コバノミツバツツジ満開!



除伐で日が差し込むことで開花しました

展示林



暗いエリア(左)と明るいエリア(中)を対比して除伐の効果を検証するため、植生、昆虫の生息状況を定点調査



明るいエリアでは、1年後のいまヒコバエ*が芽びいています

*整備後の樹木の切り株や根元から生えてくる若芽(幹・枝)のこと

地域で、保全・整備と学習を継続できるよう**社家郷山のファンづくりをすすめます**

昆虫調査&採集イベント

親子で楽しく昆虫さがし。見つけた昆虫は、神戸女学院大学の協力を得て分類し、調査データに反映。社家郷山を身近に感じ、魅力を知ってもらう機会をさらに増やしていくことが今後の最大の課題です



ボランティアによる整備活動



2012年度は
のべ**810名**が活動に
参加しました。

森の整備と、食べものやくらしとのつながりを学ぶ**プログラムづくりをすすめています**

落ち葉たい肥づくり



山に堆積した厄介ものの落ち葉も、たい肥となって豊かな食べ物を生み出します

山から農地への水流をたどる



米や野菜の生育に欠かせない水。整備された山に降った雨は、地中の養分を含んで近隣の農地へ

整備した木から作った薪で野外調理



親子で実際に整備体験。山から調達した薪と柴(小枝)を使って火を起こし、お雑煮づくり

組合員と職員が月に数回、整備活動を行っています。イベントでは、参加者の学びのお手伝いも

